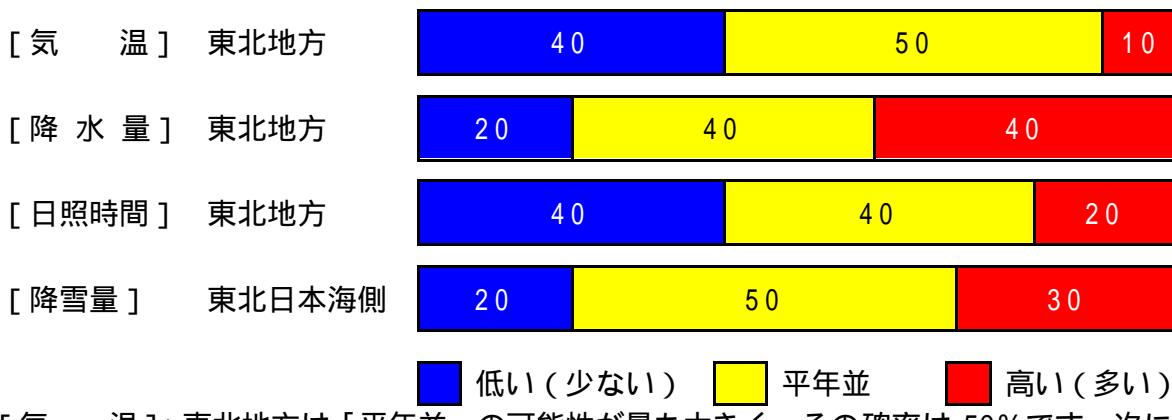


東北地方 1 か月予報の解説 (予報期間: 1 月 20 日 ~ 2 月 19 日)

平成 13 年 1 月 19 日 仙台管区気象台

1. 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)



[気温]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。次に大きい可能性は「低い」で、その確率は 40% です。「高い」の可能性は 10% と小さい。

[降水量]: 東北地方は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40% です。「少ない」の可能性は 20% と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40% です。「多い」の可能性は 20% と小さい。

[降雪量]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50% です。次に大きい確率は「多い」で、その確率は 30% です。「少ない」の可能性は 20% と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう 1 か月

期間の前半は冬型の気圧配置が続き、時々強い寒気が入るでしょう。期間の後半は冬型の気圧配置は長続きせず、天気は周期的に変わり易いでしょう。東北地方は平年に比べ晴れの日が少なく、曇りや雪または雨の日が多い見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

向こう 28 日間の平年の晴れ日数: 東北日本海側約 5 日、東北太平洋側約 18 日

各予報期間の天候の特徴

1 週目…………… (1 月 20 日 ~ 1 月 26 日) 21 日と 23 日頃に気圧の谷が通過するため、雪の降る所があるでしょう。気圧の谷の通過後は冬型の気圧配置になるため、東北日本海側では雪の日が多く、東北太平洋側では沿岸部を中心におおむね晴れる見込みです。

平均気温は低い見込みです。

平年の晴れ日数: 東北日本海側約 1 日、東北太平洋側約 4 日

2 週目…………… (1 月 27 日 ~ 2 月 2 日) 冬型の気圧配置が続き、強い寒気の入る日があるでしょう。年に比べ東北地方は曇りや雪または雨の日が多いでしょう。平均気温は平年並の見込みです。

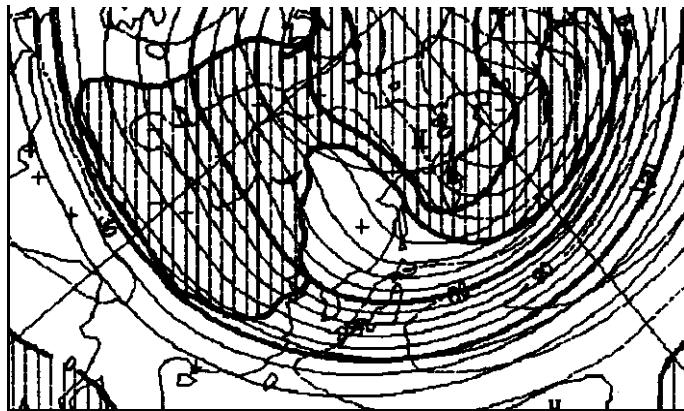
平年の晴れ日数: 東北日本海側約 1 日、東北太平洋側約 5 日

3~4週目………
(2月3日~2月16日)

冬型の気圧配置は長続きせず、天気は周期的に変わり易いでし
ょう。平年に比べ、東北日本海側では曇りや雪または雨の日が少
なく、東北太平洋側では晴れの日が少ないでしょう。
平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数：東北日本海側約3日、東北太平洋側約9日

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



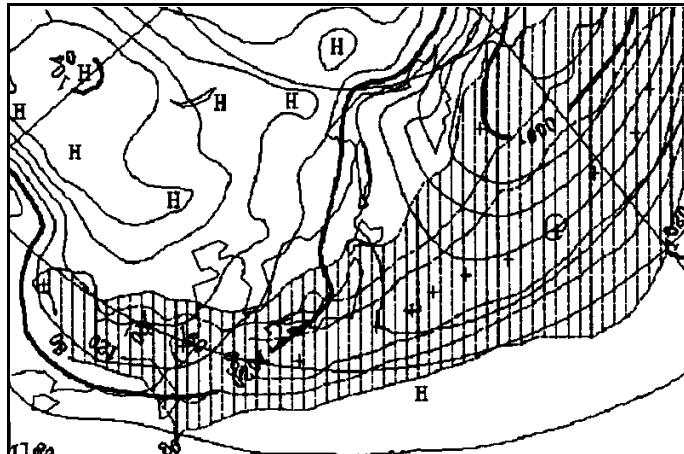
月平均の500hPa高度・偏差
(等高度線: 60m毎、偏差: 30m毎、陰影部: 負偏差)

・500hPa高度・偏差

月平均で見ると、日本付近から東方海上にかけて正偏差。極付近からカムチャッカ半島にかけて負偏差。

また、日本付近の偏西風は東西流が比較的に卓越しており、天気は周期変化が基調となる見込み。

週別（図略）では、1週目は日本の東海上が負偏差で、北日本を中心に寒気が入りやすい。2週目は大陸から日本付近は負偏差に覆われ、西日本を中心に寒気が入りやすい。3~4週目は日本付近が正偏差域となり、寒気が南下しにくい。

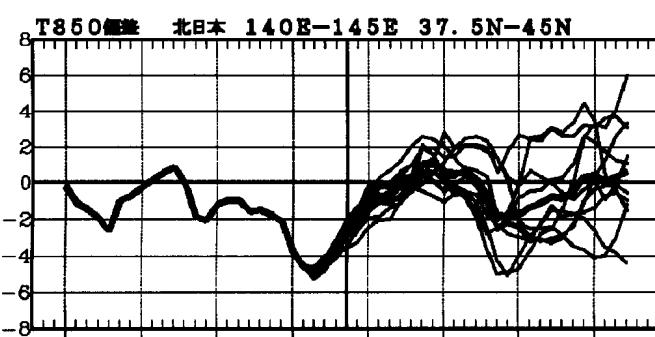


月平均の地上気圧と降水量
(等圧線: 4hPa毎、降水量: 40mm毎、陰影部: 80mm以上)

・地上気圧と降水量

月平均で見ると、中国大陸に高気圧があり、西日本に張り出す。一方、ベーリング海では低気圧が発達して、日本付近は冬型の気圧配置となっている。またまた降水域は日本の南から東海上だが、日本付近も広く降水域に覆われる。

週別（図略）では、1~2週目に冬型の気圧配置となるが、3~4週目は冬型の気圧配置は弱まる。また、3~4週には日本の南から東海上に降水域が予想され、南岸を通過する低気圧の影響を受け易くなる。



北日本850hPaの気温平年差の実況と予想

（縦軸：気温平年差（ ） 横軸：日付）

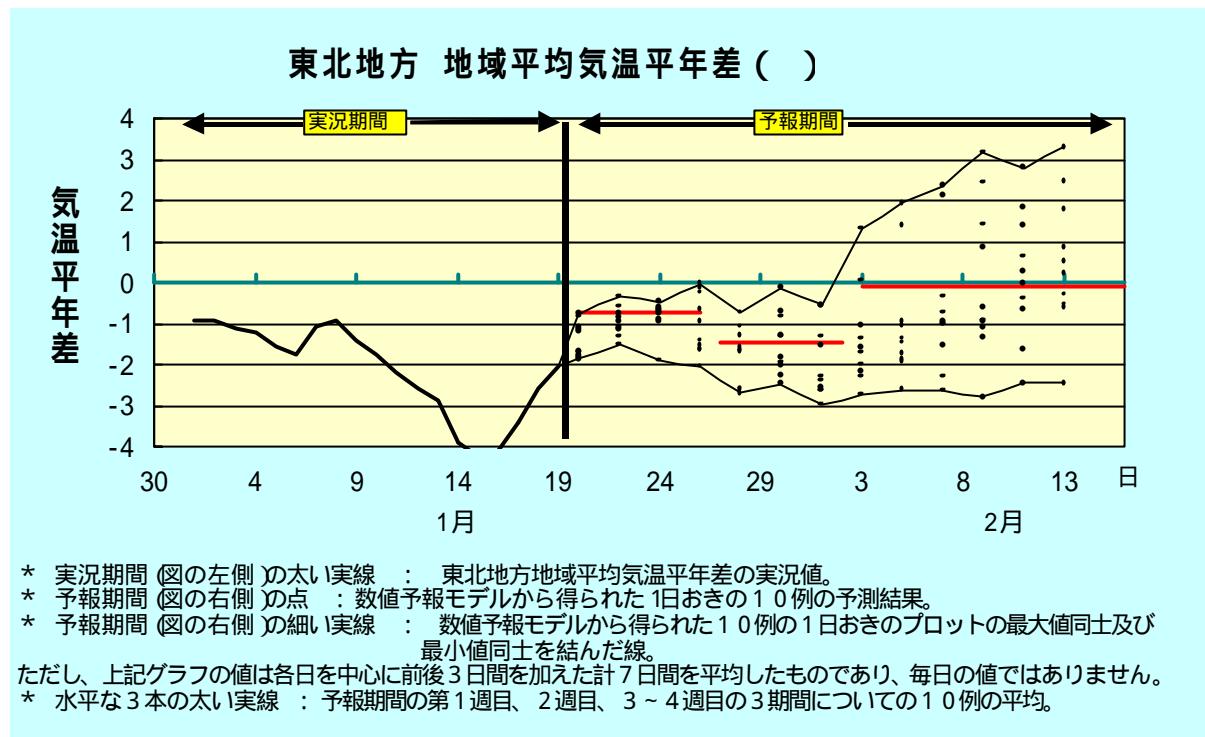
発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）の平均値

・北日本850hPa気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、1~2週目にかけて昇温傾向。2週目に平年より低くなるが、次第に上がって3~4週目はほぼ平年並となる。2週目前半までばらつきは小さいが、2週目後半からややばらつきが大きくなる

3. 東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

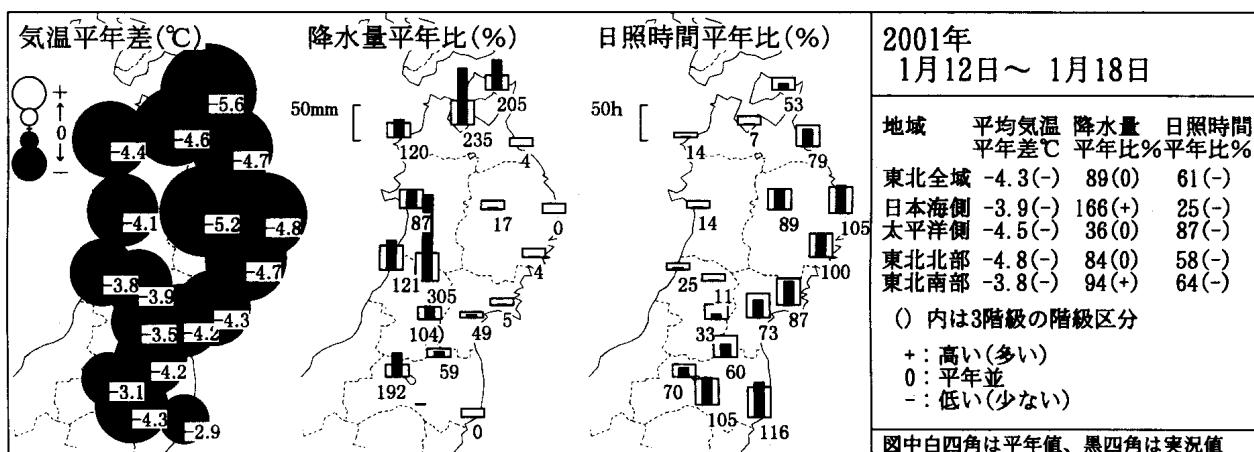
週別の気温は、1週目「低い」、2週目「低い」、3~4週目「平年並」を予測している。なお、1週目は週間予報資料からも「低い」とする。2週目は寒気の中心は西日本と考え「平年並」とする。アンサンブルメンバーのばらつきは3~4週目に大きくなるが、信頼度は大きいと考える。



4. 最近1週間(1月12日~1月18日)の天候の経過

この期間、東北地方は強い冬型の気圧配置が続いた。このため、東北日本海側では雪の日が続いた。東北太平洋側では山沿いを中心に曇りや雪の日が多くなったが、沿岸部では晴れる所もあった。

平均気温は、東北地方で平年差-4.3℃と低かった。降水量は、東北日本海側で平年比166%と多く、東北太平洋側は36%と平年並だった。日照時間は、東北日本海側で平年比25%、東北太平洋側で平年比87%と少なかった。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）